

参加チーム各位

第 41 回全日本学生ライフセービング選手権大会

実行委員会

第 41 回全日本学生ライフセービング選手権大会「BLS アセスメント」について

第 41 回全日本学生ライフセービング選手権大会 における「BLS アセスメント」の実施方法、採点基準、および評価を次の通りとしますのでご確認ください。また、BLS 標準実技の流れと呼称例については別紙の通りとしますので、あわせてご確認ください。

記

■ 実施方法

1. BLS アセスメントは、各チーム（男女別）の出場登録されている選手から抽選により 2 名選出される。出場登録選手が 1 名の場合は 1 名で競技を行うこととする。（スタッフを競技者 B として競技を行う）。※詳しくは【BLS 標準実技の流れと呼称例】[《競技者 1 人 ver.》](#)をご確認ください。
2. BLS アセスメントは参加必須種目とする。BLS アセスメントに出場しなかった場合、そのチームはチーム総合の表彰対象から除外される。また、BLS アセスメントの種目別表彰は行わない。
3. 選出された競技者（以下、競技者）の氏名は、競技が行われる日の午前 7 時 30 分に「本大会専用オープンチャット等」に掲示される。
4. 競技者が、なんらかの理由（怪我・病気等）により出場できない場合、午前 8 時までに BLS アセスメント評価員に申し出なければならない。BLS アセスメント評価員がこれを認めた場合、残りの出場登録選手の中から再抽選を行い、その場で競技者が発表される。
5. 競技は決勝のみとする。各競技者の判断で指定された時間内に競技会場に行き、受付を行った後、BLS アセスメント評価員の指示で競技を開始する。
6. 競技者が他の出場種目の進行状況により指定された時間内に「BLS アセスメント」競技を行えない場合、あらかじめ BLS アセスメント評価員に申し出なければならない。原則として、事前の申告なしに指定された競技時間内に受付ができなかった場合、その競技者は失格となる。
7. 競技者は、チームユニフォームを着用の上、参加すること（水に濡れた状態での参加は認められない）。
8. 競技者は受付時に名前とチーム名を申告する。
9. CPR および AED は、レールダル社製 CPR 練習用人形（リトルアン）および同社製 AED トレーナー（FR-2）を用いて行い、反応なし、普段通りの呼吸なし、頸椎損傷なし、途中回復なしの溺水ではない成人に対する処置（胸骨圧迫+人工呼吸+AED）を行うこと。（別紙 BLS 標準実技の流れと呼称例 参照）。これらの資器材は主催者にて準備する。
10. 人工呼吸はフィルターと一方弁が付いているマスク（ドーム）型のレサシテーションマスク（次ページ参照）を使用すること。シートタイプの感染防護具での参加は認められない。レサシテーションマスクは競技者 A、B とともに各 1 個ずつ準備すること。
11. 競技者 A・競技者 B の指定に関しては、競技開始時に BLS アセスメント評価員より伝える。
12. 競技者は、競技開始前に人形および AED トレーナーを使用して 1 分間の資器材確認および練習を行うことができる。資器材に不具合が生じた場合は、速やかに BLS アセスメント評価員に申し出ること。

13. 競技の撮影については、競技後に各チームの振り返りや BLS トレーニングの参考目的であれば、チーム関係者に限り映像を撮影することを許可する。
14. BLS アセスメントの評価（競技結果）に対する抗議は受け入れられない。
15. この他、なんらかの理由で競技に問題が生じた場合は、チーフレフリーが検討し対応を判断する。
16. 競技日の翌日は、競技に参加したチームにフィードバックを行い、評価について説明する。
参加チームは必ずフィードバックを受けること。またチーム関係者の聴講も可とするため、チーム全体で手技の改善に努めること。

■ 採点基準

CPR および AED の処置は、以下のポイントを BLS アセスメント評価員の目視によって採点する。

- ① BLS 標準実技の流れと呼称例（別紙参照）通り、正しく進められているか。
- ② 胸骨圧迫、気道確保、人工呼吸の手技は正しく行われているか。
- ③ AED は正しく扱われているか。

■ 評価

競技者の CPR および AED の処置は、BLS アセスメント評価員によって、以下の 3 段階に評価される。
また、得点は以下の通りとしチーム総合成績に加えられる。

評価	得点	内容
A	8 点	3 つの採点基準が正しく行われていて、特に修正すべき点がない
B	5 点	3 つの採点基準が正しく行われているが、注意すべき点がある
C	2 点	3 つの採点基準のうち、どれかひとつでも正しく行われていない

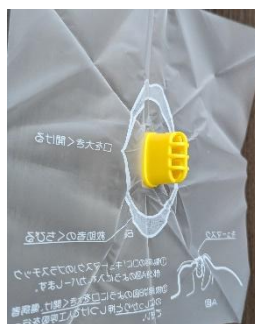
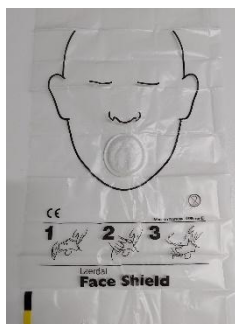
■ レサシテーションマスクについて

《使用可能》 マスク（ドーム）型の人工呼吸用感染防護具



写真と同一商品でなくても使用可能だが、フィルターと一方弁が付いているマスク（ドーム）型のもので、救助者と傷病者の間に一定の距離を設けることができるものを使用すること。

《使用不可》 シートタイプの人工呼吸用感染防護具



写真のとおりシートタイプのもので、救助者の口がシートを介して傷病者の口と密着するものは使用不可とする。※中央と右側の写真のように一方弁が付いていても、シートタイプであれば使用不可とする。

（以上）

「BLS アセスメント」に関する Q&A

過去に開催された全日本学生ライフセービング選手権大会（海・プールインカレ）BLS アセスメントに関する要項を発出後にいくつかご質問やお問い合わせをいただきました。今回の学生選手権大会においても同様の考えですのでご確認の程よろしくをお願いいたします。

Q1 選出された選手がレサシテーションマスク（以下、マスク）を忘れた場合への対応はどうするのか

A1 基本的にはそのまま参加を認めます。

ただし、人工呼吸を正しくできていない（することができない）ため、C 評価対象となります。

そのため、事前に各自・各チームで準備をお願いいたします。

BLS アセスメントの目的は、各自・各チームが事前に資器材準備や練習を実施することによって、日常に起こりうる緊急事態に対し、ライフセーバーの実施する BLS の精度を高めることにあることをご理解ください。

Q2 BLS アセスメントに使用するマスクは各チームが持参する形だが、機材チェックなどを行うのか

A2 要項に記載されているマスク（ドーム）型のレサシテーションマスクでフィルターと一方弁が付いているかは目視で確認します。ただし、HEPA フィルターであるかどうかまでは確認しません。

なお、一部ご意見として、『新型コロナウイルス感染症に対する ライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン』に記載されている、HEPA フィルターを使用すべきではないかとの指摘をいただきました。本来であれば HEPA フィルターを使用したいところですが、HEPA フィルターの使用を義務付けると、準備と事前練習のハードルが高くなりすぎるため、導入を見送っております。

Q3 感染防止はどこまでするか（グローブ、マスク、ゴーグル、ガウン）

A3 今回もレサシテーションマスクのみです。もちろん感染対策全てを評価したほうが良いという考えは理解しております。

Q4 JLA 公式 YouTube の BLS 標準動画では今回使用が認められていないフェイスシールドが使用されている。レサシテーションマスク使用の標準実技を JLA として動画で示す必要があるのではないかと。

A4 レサシテーションマスクを用いた心肺蘇生の動画を作成しています。別紙『レサシテーションマスクを使用した BLS 標準実技の流れと呼称例』と合わせてご確認ください。

●レサシテーションマスクを用いた心肺蘇生の動画

<https://vimeo.com/1029875534/ee51394141>

